

## 新天地でしだれ桜との出会い

明治 輝子 福島県福島市 七十一歳

「はじめまして。」

避難して第二のふるさとに構えたこの我が家の庭に一本のしだれ桜がある。今年の春先、初めてあなたに出会った。もう二十才以上になっっているだろうか。枝の一部が枯れ、桜の花もちらほらだった。でもこの桜の木の下で、赤い傘を立てて、赤いシートを敷いて、ささやかな花見をした。空を見上げたら、桜が青空に映えていた。根元に柔らかい土を入れ、栄養剤をかけ、水をたっぷり与え続けた。するとこの夏の暑さにもめげず、濃い緑色の葉をいつぱいつけて元気になってきた。以前ここに住んでいた主人もきつと大事に育ててきたのだろう。この庭には、他にも数種の木々が植えられている。苔むした石と年輪を刻んだ木々が、バランスを保ちながら趣のある味わい深い庭となっている。先人の方の庭に託した心を想い浮かべた。きつと、年ごと、折々の思い出を育んできたのだろう。避難して四年余り。自宅も思い出の庭もすべて置いてきた。そしてひよっこり、この庭と出会った。宝物を得た様な感動だった。この庭木は歴史を刻んでいて私達を迎えてくれた。これからは私が守っていくからね。桜や他の木達に語りかけた。ずつとずつと、大事に大事に育てていこう。来春の桜に出会えるのを楽しみに。造園業者さんに木の枝を散髪してもらった。さっぱりした木々達。緑の木々を抜ける風は爽やかだ。